

可睡齋「活人剣の物語」の絵本450冊を袋井市に寄贈

平成29年5月、可睡齋活人剣再建委員会は、日清戦争による両国の戦死者を慰霊する「活人剣」にまつわる秘話を紙芝居や絵本とした。

このたび再建委員会は袋井市へ絵本450冊を寄贈。

可睡齋活人剣再建委員会は、平成29年5月、「由緒ある活人剣の物語を、子どもから大人まで多くの人に知ってもらいたい」という思いから紙芝居や絵本を制作しました。子どもは勿論、初めてこの話に触れる大人にも大変参考になる絵物語となっています。

今回、絵本1,300冊を発行したことから、うち450冊を袋井市に寄贈いただきます。袋井市では、市内の幼稚園をはじめ、小中学校や市立図書館などに配布します。

- 1 題 名 活人剣の物語
- 2 発 行 可睡齋活人剣碑再建委員会（会長：佐瀬 道淳）
- 3 作 者 絵：鈴木 幸子 文：鈴木 宏典
- 4 発 行 1,300部 1冊：500円
- 5 寄 附 450部
- 6 配 布 先 袋井市内の幼稚園、小学校、中学校、市立図書館など
- 7 販 売 可睡齋売店、袋井市役所1階売店、袋井市観光協会

8 基本情報

日清戦争の講和条約締結のため来日した清国全権大使「李鴻章」が、日本人の暴漢に狙撃され大けがを負う。生命の危機に瀕した李を、陸軍軍医総督で順天堂大学3代目堂主の「佐藤 進」は、卓越した医療技術と献身的な看護により一命を取り留めました。

その後、回復期にあった李は、佐藤が腰に付けていた剣を疑問に思い尋ねたところ、佐藤は禅にある言葉を用い「この件は病魔を断ち切る活人剣だ」と答え大いに李を感心させたといします。

このエピソードに基づき、日清戦争における両国の戦死者を慰霊するため明治33年(1900年)に、当時の可睡齋「日置黙仙」齋主によって「活人剣」は制作されました。作家は日本を代表する彫刻家「高村高雲」でした。

しかし、活人剣は鉄製であったため、太平洋戦争時に金属部分は徴収され台座を残すのみとなっていました。

袋井まち育ての会(会長：遠藤亮平)は、当時の人々が活人剣に込めた思いが風化することを懸念し、可睡齋活人剣碑再建委員会を発足、地道な募金活動の末、平成27年9月26日再建を果たしました。今回のモニュメントの作者は、前東京藝術大学学長で、現文化庁長官の宮田亮平氏です。

